

都市のヒグマとヒト

きたネット 北海道環境活動交流フォーラム2018

北海道の市街地にヒグマが頻繁に出没しています。生態系の頂点であるヒグマが生存することは、自然の近さ・豊かさの象徴である一方、住民や管理者が被害を受ける危険を伴います。生物多様性保全やSDGsの理念から、ヒグマは共にこの地に暮らす仲間であり、人が平和な暮らしを願うのと同様に、野生生物の将来も保証されるべき。大都市にヒグマが生息するという、世界に類のない状況がもたらすリスクをどう管理して安全を担保していくのか、命のせめぎ合いの最前線から共生のランドデザインを考えます。

事前申込要

12/8 (土) 10:00~17:40 (9:30受付開始)
札幌エルプラザ 3Fホール他

参加費 きたネット会員・学生/全日1300円 午前または午後のみ700円 一般/全日1500円 午前または午後のみ800円

PROGRAM

10:00 開会・ごあいさつ

10:10 基調講演1
「札幌生まれのヒグマたち—その暮らし、人や街との距離感」

佐藤 喜和 氏
(酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類教授 野生動物生態学研究室)
札幌市街地近郊の森林で行ってきた野外調査の成果をもとに、札幌に生きるヒグマの生態や繁殖実態について紹介、本フォーラムの話題提起を行います。

11:10 基調講演2
「人とヒグマとの付き合い方・ヒグマ観の歴史的变化」

前田 菜穂子 氏 (ヒグマ情報センター)
ヒグマという生き物の生態や魅力、アイヌに学ぶヒグマとの付き合い方、現代のヒグマとの関係と対比させながら、お話いただきます。

12:10~13:10 休憩



早稲田 宏一 氏



山本 牧 氏



片山 綾 氏

パネルディスカッション

13:10~14:10 パネルディスカッション
「生活の場、環境保全活動の場にヒグマが! 地域の暮らしをどう守る?」

コーディネーター/佐藤 喜和 氏

前田 菜穂子 氏 (ヒグマ情報センター)
早稲田 宏一 氏 (NPO法人EnVison環境保全事務所)
山本 牧 氏 (NPO法人もりねっと北海道)
片山 綾 氏 (公益財団法人知床財団 公園事業係)

パネリスト

14:30~16:15 分科会
課題解決のために、ネットワークを活用する

分科会A 生物多様性保全
200万都市札幌で、環境共生の理念と矛盾しない、ヒグマとの共生ランドデザインを考える

座長/長谷川 理 氏 (NPO法人EnVison環境保全事務所)

事例/札幌市のヒグマ問題、現状と対策

坂田 一人 氏 (札幌市環境局環境都市推進部 環境管理担当課熊対策調整担当)
今井 健太 氏 (滝野すずらん丘陵公園滝野管理センター)
花田 沙智子 氏 (札幌市定山溪自然の村 主任指導員)
札幌市民は、ヒグマや野生生物との共生をどう考えているか
愛甲 哲也 氏 (北海道大学農学研究院准教授)

札幌市の現状と対策、共生ランドデザインを考える / 佐藤 喜和 氏
運営協力・進行/酪農学園大学環境共生学類学生のみなさん

分科会B 森林保全
森林保全団体の課題解決、市民活動のネットワークに求められる機能は?

座長/枝澤 則行 氏 (ふるさと美幌の自然と語る会事務局長)

森林保全・森づくりに関わるきたネット会員団体他、一般団体、企業、個人のみなさん
※発表者は、きたネットのFacebook等でご案内します

分科会C 環境教育
市民活動・環境教育をSDGs的思考で、さらに広いネットワークに

座長/麻生 翼 氏 (NPO法人森の生活理事長)

秋山 孝二 氏 (北海道経済同友会幹事・(公財)秋山記念生命科学振興財団理事長)
廣瀬 岳史 氏 (No Maps実行委員会事務局長)
ピアンカ・フルスト 氏 (NPO法人八剣山エコケータリング代表)
佐竹 輝洋 氏 (札幌市環境局環境都市推進部 環境計画課調査担当係長)

16:30 伝え、拡げるために 全体情報交換会

話題提供 市民団体は自然災害の際にどんな役割を果たせるのか
定森 光 氏 (NPO法人北海道NPOサポートセンター)

17:20 まとめ 閉会



定森 光 氏



長谷川 理 氏



坂田 一人 氏



今井 健太 氏



花田 沙智子 氏



愛甲 哲也 氏



枝澤 則行 氏



麻生 翼 氏



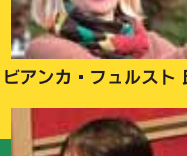
秋山 孝二 氏



廣瀬 岳史 氏



ピアンカ・フルスト 氏



佐竹 輝洋 氏

都市住民と野生動物は豊かさを分かち合えるのか? 環境共生とヒグマ管理の調和的実現への挑戦

【お問合せ・お申込み】NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」 Tel.011-215-0148 Fax.011-215-0149 E-mail office@kitanet.org 「きたネットWeb」 http://kitanet.org/ 詳細は裏面をご覧ください。

【主催】NPO法人北海道市民環境ネットワーク／一般財団法人セブン-イレブン記念財団



【共催】札幌市 【後援】北海道新聞野生生物基金 【協力】酪農学園大学環境共生学類 公益財団法人知床財団 環境中間支援会議・北海道(環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、NPO法人北海道市民環境ネットワーク)

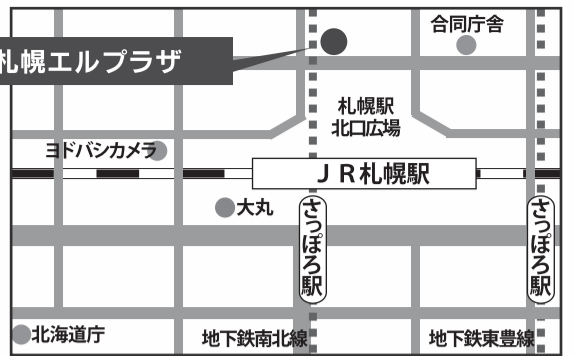
KITA-NET FORUM 2018

都市のクマとヒト

12/8 (土) 10:00～17:40 (9:30受付開始) 札幌エルプラザ 3Fホール(受付)・環境研修室他

参加費 きたネット会員・学生/全日1300円 午前または午後のみ700円 一般/全日1500円 午前または午後のみ800円

事前申込要 FAX・E-mail・電話等でお申込みください。申込締切12/5(水)(先着順)



※公共交通機関をご利用ください。

PROFILE

基調講演

佐藤 喜和氏 さとう よしかず

(酪農学園大学環境共生学類 教授) 1971年東京都出身。北の自然に惹かれて北海道大学入学。同大ヒグマ研究グループに参加してヒグマにはまる。農学部応用動物学教室を経て、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了、博士(農学)。白糠丘陵(浦幌町ほか)や札幌市を主な調査地に、ヒグマの生態と軌跡管理に関する研究を続けている。また、浦幌ヒグマ調査会(事務局長)、ヒグマの会(事務局長)、日本クマネットワーク(副代表)として、クマ類の保全活動にも積極的に関わっている。ここ数年は四国のツキノワグマ保全にも取り組む。

前田 菜穂子氏 まえだ なおこ

(ヒグマ情報センター) 1948年旭川市生まれ、75年北海道大学理学部生物学科動物学専攻卒業、同年登別温泉ケーブル株式会社でのぼりべつクマ牧場に飼育員として入社、76年ヒグマ専門誌『ヒグマ』発刊、79年市民団体・ヒグマの会発足、84年ヒグマ博物館開設・学芸員として現在に至る。室蘭工業大学・北海道大学非常勤講師。著書に『ヒグマが育てる森』(岩波書店)、『よいクマわるいクマ』(北海道新聞社)など。

パネルディスカッション

生活の場、環境保全活動の場にもヒグマが！地域の暮らしをどう守る？

様々な立場で北海道の自然環境と関わる方々に、昨今のヒグマ出没の影響と対応、課題などを紹介していただきます。また、どのような気構えでヒグマの存在をとらえ、活動・生活を続けていかか、行政・専門家・NPOに期待することは？などをディスカッションします。

【コーディネーター】佐藤 喜和氏

【パネリスト】前田 菜穂子氏

山本 牧氏 やまもと まき

(NPO法人もりねっと 理事長) 1955年福井市生まれ。祖父母に山仕事を教わる。74年北海道大学理学部入学。ヒグマ研究グループ入り、クマに森歩きを教わる。80年農学部林学科卒業、大学院農学研究科進学。81年大学院中退、北海道新聞社入社。世の中の複雑さを学ぶ。富良野支局長、社会部次長、編集委員など。2006年、NPO法人もりねっと北海道設立に参加、2010年北海道新聞社退社。ヒグマの会副会長、東海大非常勤講師。

早稲田 宏一氏 わせだ こういち

(NPO法人EnVision環境保全事務所) 1974年生まれ。学生時代に苫小牧でヒグマの生態調査に関わる。ヒグマ・エゾシカを中心とした野生動物の調査研究や被害対策の業務に従事しながら、野生動物の生態を普及する活動にも取り組んでいる。

片山 綾氏 かたやま あや

(公益財団法人知床財団 公園事業係) 地元斜里町出身。小学5年生の時、第13回自然教室(1992)に初めて参加。以来、中学・高校時代も欠かさず参加する。その後、大学時代はリーダーとして、卒業後は公益財団法人知床財団に就職し指導員として子どもたちを率いる立場となる。現在、公園事業係として知床自然センターのインフォメーションカウンターに立ち、知床のリアルな自然情報を日々提供している。地元斜里山岳会理事。

分科会A 生物多様性保全

200万都市札幌で、環境共生の理念と矛盾しない、ヒグマとの共生ランドデザインを考える

人口200万の大都市にヒグマなど大型の野生動物が出没する例は、世界のどこにもありません。この未知の状況、リスクに、どう対処し、新しい共生のランドデザインをつくっていくのか。行政、施設管理者、研究者、NPOなど、最前線で問題に向き合う事例を知り、具体的な問題への対応策を探ります。

運営協力・進行/ 酪農学園大学環境共生学類学生のみなさん

【座長】長谷川 理氏 はせがわ おさむ

(NPO法人EnVision環境保全事務所) 1972年神戸市出身。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了。博士(地球環境科学)。共著書に『鳥の自然史一空間分布をめぐって』(北海道大学出版会)。北海道新聞社発行のネイチャーマガジン『モーリー』に『生きものたちの情景』連載中。

坂田 一人氏 さかた かずと

(札幌市環境局 環境都市推進部 環境管理担当課 熊対策調整担当)

1972年札幌出身。1998年3月、北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了後、民間の食品製造業において10年間、主に商品開発業務に従事。2008年4月より札幌市に奉職。2018年度より熊対策調整担当係長として、日々札幌市のヒグマ出没対応業務やヒグマの市街地侵入抑制策に取り組んでいる。

今井 健太氏 いまい けんた

(滝野すずらん丘陵公園自然環境マネージャー) 札幌生まれ京都市育ち。約7年のコールセンター勤務を経て、滝野公園管理センター勤務。平成22年より“滝野の森ゾーン”の担当となり、森を使ったイベント企画・広報、森づくり、ボランティア活動等を担当。平成25年、29年のヒグマ侵入時には公園担当者として各専門家と現地調査に立ち会う。

花田 沙智子氏 はなだ さちこ

(札幌市定山溪自然の村主任指導員) 札幌市生まれ。学生時代から野外教育に関わり、地域に根差した自然体験活動をテーマに活動中。札幌市定山溪自然の村の指定管理者である公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会野外活動課所属。2014年(平成26年)より現職。趣味は、温泉と体操。

愛甲 哲也氏 あいこう てつや

(北海道大学農学研究院 准教授) 鹿児島県出身。専門は造園学、特に公園の計画・管理。自然保護地域におけるレクリエーション利用のモニタリングとその管理、地域や市民との協働による自然公園、都市公園の管理のあり方について研究。著書に『自然保護と利用のアンケート調査』(築地書館)、『利用者の行動と体験』(古今書院)など。

【コメンテーター】

早稲田 宏一氏、山本 牧氏 他

分科会B 森林保全

森林保全団体の課題解決、市民活動のネットワークに求められる機能は？きたネット会員の森林保全に関わる団体を中心に、北海道の森林保全・森づくりに関わる方にお集まりいただき、活動の現状と課題についてお話しいただき、これからの活動のありかた、ネットワークの役割をディスカッションします。

※発表いただく団体・個人は、決定次第、随時、きたネットのFacebook等でお知らせしていきます。

【座長】枝澤 則行氏 えださわ のりゆき

(きたネット副理事長・ふるさと美幌の自然と語る会) 1958年美幌町生まれ、美幌町在住の純粋な道産子。北見柏陽高校山岳部で勉学より登山に熱中。落石事故がきっかけで北見営林局に就職。以来42年間林野行政に携わる。1992年ふるさと美幌の自然と語る会を設立。自然観察会、野生動物植物の保護、ヘイケボタルの保全、ウチダザリガニの駆除、手作り魚道づくり等の生態系の保全活動を実践している。

分科会C 環境教育

市民活動・環境教育をSDGs的思考で、さらに広いネットワークに

市民活動・環境教育はもともとSDGsの考え方で成り立っています。つながり思考、誰も取り残さない、一人一人の幸せを優先するといった考えです。企業や行政などとの共通言語たり得るSDGs的な視点で、市民団体の活動を捉え直すことで、共感と新しい連携を促すネットワークをつくりだせるのでは？

【座長】麻生 翼氏 あそう つばさ

(きたネット理事・NPO法人森の生活 代表理事) 愛知県名古屋市出身。北海道大学森林科学科森林政策学研究室卒業。関西での種苗会社勤務、道東でのグリーンツーリズム事業を経て2010年に下川町に移住。森の生活に参加。2013年から代表理事に就任。下川町総合計画審議会SDGs部会部会長。NPO法人北海道市民環境ネットワーク(きたネット)理事。

秋山 孝二氏 あきやま こうじ

(きたねっと理事・北海道経済同友会幹事・(公財)秋山記念生命科学振興財団理事長・(一財)札幌南高等学校林理事長) 1951年札幌生まれ。千葉大教育学部卒。5年間、東京都江戸川区立鹿本中学校に理科教諭として勤務。1979年(株)秋山愛生館に入社。1992年、第5代目代表取締役社長に就任。98年(株)スズケン(本社・名古屋)と合併、代表取締役副社長に就任。2002年退任。2009年～2016年きたネット理事長。

佐竹 輝洋氏 さたけ あきひろ

(札幌市環境局 環境都市推進部 環境計画課 調査担当係長) 宮城県出身、北海道大学理学部卒。2004年に札幌市入庁。環境教育や地球温暖化対策等の環境政策、環境省地球温暖化対策課への出向を経て、2015年より現職。2018年3月に策定した第2次札幌市環境基本計画では、全国に先駆けてSDGsを導入。札幌市を含む全国29都市が選定された「SDGs未来都市」などを担当。

廣瀬 岳史氏 ひろせ たけし

(No Maps実行委員会 事務局長) 大学卒業後、民間企業を経て民間シンクタンクで道内自治体の政策立案や地域活性化事業に従事。その後、現場により近いまちづくり系の会社に籍を移して、地域活性化や地域人材育成事業の企画・運営に携わる。2016年、No Mapsの前身の一つである札幌国際短編映画祭関連の調査業務に携わったことを契機に、No Maps立上げに参画。産官学の多様な主体が関わる事業の調整役を担う。2017年4月より現職。

ビアンカ・フルスト氏 Birgit Bianca Furst

(NPO法人八剣山エコケータリング 理事長) ドイツのウルム市生まれ。札幌市在住。1996年に(公財)札幌国際プラザの国際交流員として来札。2012年に夫が経営する八剣山果樹園をベースに、「NPO法人八剣山エコケータリング」を設立。自然エネルギー教育やESD教育のワークショップやセミナー、ドイツへのスタディツアーの企画・同行、講演活動などを行う。札幌静修高校(ドイツ語)や酪農学園大学(環境教育論)での非常勤講師。環境省認定環境カウンセラー、札幌市環境保全アドバイザー、北海道エコアカデミアのエコトレーナー。

伝え、拡げるために 全体情報交換会

フォーラム参加者の交流と情報交換の場です。

定森 光氏 さだもり ひかる

(NPO法人北海道NPOサポートセンター) 名古屋市出身。北海道大学農学部森林科学科卒業後、名古屋の商社に入社。2012年にホームレスなど生活困窮者支援に取り組む。NPO法人ささしまサポートセンターに転職。2016年、札幌に移住し、現職に。NPO設立相談、研修事業などを実施。

TIME TABLE

午前	10:00	開会・ごあいさつ	3Fホール
	10:10	基調講演 1 札幌生まれのヒグマたち —その暮らし、人や街との距離感	
午後	11:10	基調講演 2 人とヒグマとの付き合い方・ ヒグマ観の歴史的变化	3Fホール
	(12:10～13:10)	休憩	
	13:10	パネルディスカッション 生活の場、 環境保全活動の場にもヒグマが！ 地域の暮らしをどう守る？	3Fホール
	14:30	分科会 課題解決のために、 ネットワークを活用する	
		A 生物多様性保全 200万都市札幌で、 環境共生の理念と矛盾しない、 ヒグマとの共生ランドデザインを考える	3Fホール
		B 森林保全 森林保全団体の課題解決、 市民活動のネットワークに 求められる機能は？	2F 環境研修室1
	C 環境教育 市民活動・環境教育をSDGs的思考で、 さらに広いネットワークに	2F 環境研修室2	
	16:30	伝え、拡げるために 全体情報交換会	3Fホール
	17:20	まとめ・閉会	

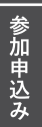
お寄せいただいた個人情報は、きたネットからのイベント等の案内以外には使用いたしません。

参加申込書 FAX. 011-215-0149 FAXまたは郵送、E-mailでお申込みください (12/5(水) 締切)

お名前(フリガナ)	所属団体・企業・職業・学校	参加プログラム 希望のプログラムに ✔を付けて下さい。 ※申込み多数の場合先着順	<input type="checkbox"/> 午前	基調講演1/基調講演2
			<input type="checkbox"/> 午後	パネルディスカッション 分科会 (お選び下さい) <input type="checkbox"/> A/生物多様性 <input type="checkbox"/> B/森林保全 <input type="checkbox"/> C/環境教育(SDGs) 全体情報交換会
ご住所 〒		E-mail	<input type="checkbox"/> 終了後	18:30～交流会(会場/札幌駅周辺・参加費/実費(当日支払い))
分科会B 森林保全では、森林保全・森づくりに関わる活動紹介と課題共有の時間を設けます。発表希望の団体はご記入ください。(きたネット会員優先)			発表希望 団体名	
			発表者名	

We love, We Save... きたネットとは

地球の森林の1/700が北海道にあります。多様な野生生物や植物がこの豊かな自然の中でいのちを育んでいます。「きたネット」は、この北海道の環境を守り、次の世代にひきついでいくために活動する、市民団体59団体(2018年10月現在)と、活動に賛同する個人や企業が所属する、環境活動のネットワークです。



NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8番地 愛生館ビル5階
Tel. 011-215-0148 Fax. 011-215-0149 E-mail. office@kitanet.org
きたネットWeb http://kitanet.org きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org



本フォーラムは一般財団法人セブーン・イレブン記念財団の助成をいただき開催いたします。



http://kitanetv.blogspot.jp/
きたネットでは行事などの動画をインターネットで発信しています。
本フォーラムの一部も後日録画配信を行う予定です。